

——今期（2024年12月期）の市場環境はどうみえますか。

「主力製品である半導体製造装置関連は、半導体メモリー市場の本格回復が遅れ、お客さま側で当社部品の在庫が堆積している。この影響が上期まで続くが、下期以降は在庫消化が進んで好調に推移するだろう。」

FPD（有機EL・液晶パネル）製造装置関連は前年並み、シームレスパイプ工は原油価格の影響により減少とみている。

——収益面は。

「運搬費・電力費のコストアップ要因はあるが、品質改善による大幅なコストダウンを進める。下期の半導体の回復もあり、増益を見込む。普通配当は10円増配の40円とする予定で、ROE（自己資本利益率）は前期並みの9・5%を見込む。」

——創立80周年を迎える29年までの「中期目標」を策定しました。

「社員が議論して作り上げることを重視し、部署横

## 新報国マテリアル 成瀬 正社長



### 低熱膨張合金「グローバルニッチトップ」へ

張合金）の需要が大幅に拡大する。FPD製造装置はそこまで伸びないが、高精度大型テレビやタブレット端末・パソコンなどの有機EL向け設備投資が進む。CCS・CCUS（CO<sub>2</sub>の回収・貯蔵・利用）など新たなシームレス需要への対応、航空・宇宙・環境分野への参入も進めていく。

製造、研究開発を含めた設備投資計画は6年間で20億円。過去6年間の製造、研究開発を含む設備投資計画は6年間で20億円。過去6年間の製造、研究開発を含む設備投資計画は6年間で20億円。

断のチームを三つ（会社の魅力向上、未来商品開発、製造技術革新）作って検討を重ねた。『インバー合金 グローバルニッチトップ』でさらなる成長を目指すこととして、理念・ビジョン、行動指針、施策など当社がどう進むかを対外的にも明示した。

「世界初のインバー合金（低熱膨張合金）の需要が大幅に拡大する。FPD製造装置はそこまで伸びないが、高精度大型テレビやタブレット端末・パソコンなどの有機EL向け設備投資が進む。CCS・CCUS（CO<sub>2</sub>の回収・貯蔵・利用）など新たなシームレス需要への対応、航空・宇宙・環境分野への参入も進めていく。」

## 世界最先端の研究開発を追求

「最先端半導体製造装置向けでは強磁場下で適用可能な非磁性インバー合金、超高真空下で適用可能なインバー合金、産業機器向けでは高応力下で適用可能な高強度インバー合金、極低温・水素環境下で適用可能なインバー合金を開発する。」

「環境分野では個別環境に対応したEGNIS（耐溶融塩腐食合金）シリーズの拡充、クリープ強度と腐食性の両立した合金、水素発生による脆化防止合金などを開発する。」

「航空・宇宙分野の進捗も状況も聞きたい。」

「宇宙ロケットの燃料供給ラインの部品に（ゼロ膨張・極低温安定・高剛性・耐食性の全てで最高水準を備える）『ICIDEX』の採用が確定している。JAXA（宇宙航空研究開発機構）の火星探査衛星『MMX』や『JASMINEミッション』に搭載予定だ。また航空機用金型材はすでに納入しているが、商用ドローンの量産機体用CFRTP成形用金型インバー合金の開発も完了している。」

「3D砂型製造装置、砂混錬」

（谷山 恵三）